

製品名: AKT1/2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86301**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:56 kDa; Observed MW:56 kDa

抗原情報

遺伝子名	AKT1/2
別名	AKT; PKB; RAC; CWS6; PRKBA; PKB-ALPHA; RAC-ALPHA
遺伝子 ID	207
SwissProt ID	P31749
免疫原	ヒト AKT1 の合成ペプチド

背景

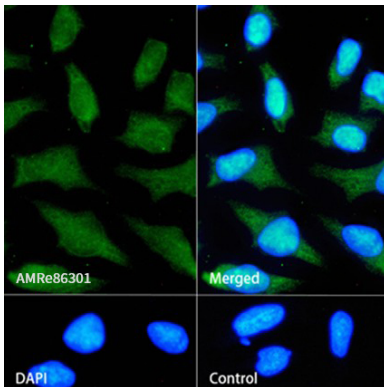
AKT1 遺伝子によってコードされるセリン-スレオニンタンパク質キナーゼは、血清飢餓状態の初代培養線維芽細胞および不死化線維

芽細胞において触媒活性を示さない。AKT1 および関連タンパク質である AKT2 は、血小板由来増殖因子によって活性化される。この活性化は迅速かつ特異的であり、AKT1 のプレクストリン相同ドメインの変異によって阻害される。この活性化はホスファチジルイノシトール 3-キナーゼを介して起こることが示されている。発達中の神経系において、AKT は増殖因子誘導性のニューロン生存の重要なメディエーターである。生存因子は、セリン/スレオニンキナーゼ AKT1 を活性化することで転写非依存的にアポトーシスを抑制し、AKT1 はアポトーシス機構の構成要素をリン酸化して不活性化する。この遺伝子の変異は、プロテウス症候群と関連している。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



AKT1/2 ウサギモノクローナル抗体を使用して AKT1/2 を標識した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。